

住居リフォーム（その 3：キッチン編）

3. キッチン

(1) キッチンの流し台等の表面仕上のリフォーム

キッチンの雰囲気をお金をかけないで変える方法として、流し台の扉部分に接着剤付塩化ビニールシートを貼る方法があります。図 1、2 の例では 45cm 幅×2m（参考価格 780 円）のシート 4 本ですので、実費約 3,300 円でできました。なお、必要量は実測の上、確認してください。



図 1 棚の部分



図 2 キッチンの部分

【作業手順】

- ① ドライバで各扉を外します。
- ② 扉の取手を外して扉表面の汚れを落とします。取手は別に金属磨きなどで洗浄します。
- ③ シートを貼る面より少し大きく切って、端の接着面の養生シートを少し剥がして、扉の接着面につけます。そしてシートを片側からタオルで円を書くように押さえ、養生シートを少しずつ剥がしながら、全面を接着していきます。気泡が入ったらあわてず、針でその部分に孔を空け、タオルで再度押さえ、空気を抜きます。
- ④ 余分なシート部をカッターなどで断ちます。
- ⑤ 外した取手を扉に取り付け、扉をもとの場所に取り付けます。

(2) 目地の汚れ隠し

水栓奥のタイルとステンレスの継ぎ目のシリコーン系充填材で防水処置がされている部分は汚れが溜まり易い部分です。そしてカビによる黒ずみが発生すると除去できません。この場合、目地部分を乾燥させて目地の上下をマスキングテープで保護し、シリコーン系充填材（例：『シリコーン系充填材 バスボンド 白色（コニシ（株））』（100g、参考価格 980 円）を既存の目地の部分の充填材の上に上塗りすることで汚れが目立たなくすることができます。

(3) 棚板の変更

標準の流し台上部の棚の不満な点は棚板が薄く、食器を置くとたわむことです。図 3 はこれを改善するため、奥行き 30cm、厚さ 1.7cm の市販の棚板を棚の幅に合わせてカットして交換した例です。

(4) 換気扇下を鍋、フライパン掛けに

図 4 はキッチンの排気フードの下に、吊り下げ用フックを取り付けたステンレスパイプを渡して、

鍋・フライパンを掛けられるようにしたものです。油ものを調理するときは汚れないように外す必要がありますが、他の料理では直ぐ調理器具に手が届くことから便利です。



図3 棚板の交換



図4 鍋掛け

(5) キッチンの背面の活用

キッチンの改修を考える一因として現在のI型の流し台だけでは材料の置き場所、作業場所が少ないことがあります。図5、6は幅45cmで3cm厚の集成材を流し台背面の凹部の横幅に合わせてカットし、床面から壁面に添わせて立てた支持脚の上に置いて作業テーブルをつくることでこれらの不満に対応したものです。高さは流し台と同じにしてあります。また、図5には壁面に高さを変えられる棚板（作業台として使う部分は棚に頭をぶつけないように最上部だけ配置）、また、電子レンジの換気口の位置と周囲の離隔距離を考慮して自作したキャスター付の置き台が見えます。図6にはキッチンの内側の入口上部にロールスクリーンが取り付けられているのが見えます。



図5 流し台と反対側の作業台（左側）



図6 流し台と反対側の作業台（右側）

(7) キッチンの大改修について

キッチンをシステムキッチンに大改修したいとお考えの方もいらっしゃると思います。トイレ、浴室の改修の中で排水管の位置の制約があることを述べましたが、キッチンも同様です。キッチンではさらに排気ダクトの位置の制限があります。改修をご計画の場合、管理組合にご相談ください。なお、キッチンの排水で温度の高いお湯を流すことがありますが、排水管材料に耐熱性の乏しいものを使ったり、排水の詰りやすい施工をする業者がいます。信用ある業者をお選びください。